

来週の「売り物」記事はこれ



2010年12月3日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

わたしの12月8日～日米開戦の記憶

くらしナビA面6～8日



女子中等校体錬大会

69年前の12月8日、日本軍が米国を急襲して太平洋戦争が始まったとき、人々は「新しい歴史が始まる」と歓喜しました。開戦はどんな子どもたちにどんな印象を残し、その後の人生をどう変えたのでしょうか。児童文学者らに聞きました。

あなたの処方箋 耳鳴り

くらしナビA面6～10日

「キーン」「ゴー」と不愉快な耳鳴りは最近、高齢者ばかりではなく20～30代の若者にも広がっています。寝られなくなったり、食欲低下を引き起こすこともあり、背景に疲労やストレスが潜んでいることも。原因と対策をレポートします。



男のおしゃれ公開講座～鳥越俊太郎さんも変身

くらしナビB面9、16日



おしゃれのプロが、男性をカッコよく変身させる人気コーナー。東京・銀座で開かれた公開講座を、2回に分けて紹介します。ジャーナリストの鳥越俊太郎さん＝写真＝がゲストとなり、読者モデル2人とともに、クリスマスの華やかな装いで登場します。

ロングインタビュー「時代を駆ける」

元パラリンピックスキーマー、大日方邦子さん

7日から7回

ロングインタビュー「時代を駆ける」は、パラリンピックスキーマーとして日本人過去最多となる10個のメダルを獲得した大日方（おびなた）邦子さん（38）＝写真＝が登場します。

3歳の時、交通事故で右脚を失った大日方さんは、高校生の時に障害者用の椅子型スキー「チェアスキー」に出会い、人生が変わりました。若手育成のために抜てきされた94年のリレハンメル・パラリンピックは惨敗。しかし、持ち前の負けん気の強さで、地元開催となった4年後の長野大会では、日本人初の金メダルを獲得します。

法律家を目指した大学時代や、NHKディレクターとして迫った「取材側」、夫婦別姓など、思うところを存分に語ってもらいます。



フィギュアの頂点 日本勢の争い――10日からGPファイナル

11、12日掲載



フィギュアスケートの今年度チャンピオンを争うグランプリ・ファイナルが10日から北京で開かれます。シングルに出場するのは、NHK杯など世界各地で行われたグランプリシリーズ6大会で上位の成績を挙げた男女各6選手。日本勢は、男子の高橋大輔、小塚崇彦、織田信成、女子の安藤美姫、村上佳菜子、鈴木明子の計6人が出場します。男女いずれも、日本選手が半分を占めました。急成長でアイドル的人気が高まっている16歳の村上、バンクーバー五輪銅メダリストの高橋をはじめ、どの選手にも優勝のチャンスがありそうです。大会は10日にショートプログラム、11日にフリーが行われて勝負が決まります。注目される銀盤の争いは、11日、12日朝刊の運動面などでお楽しみください。

人生の達人<玄侑宗久さん、山本一力さん> 「贈る言葉」

夕刊特集ワイド面 9日（木）

大学生の就職難が社会問題化しています。10月現在の就職内定率は、調査を始めた96年以降最悪の57・6%になりました。激しい競争に、多くの学生たちが神経をすり減らしています。そして、頭をもたげるのは、人は何のために働くのか、という根源的な問いかけだといいます。何も、学生に限ったことではありません。多くの人が、折に触れて考えることではないでしょうか。さまざまな職業遍歴を経て僧侶になった、芥川賞作家の玄侑宗久さん、多額の借金を抱えるなど大きな挫折体験を持つ直木賞作家の山本一力さんらに働くことの意味をあらためて聞きました。



「知りたいが分かる、がモットーの「特集ワイド」に、ご期待下さい。

紙面事情などにより掲載日変更になることがあります。